

# 平成26年度病害虫発生予察特殊報第2号

平成27年2月2日  
愛 知 県

- 1 病害虫名：クロテンコナカイガラムシ (*Phenacoccus solenopsis* Tinsley)
- 2 発生作物：食用トレニア、食用金魚草
- 3 発生地域：東三河地域
- 4 発生確認の経過

平成26年10月中旬に、東三河地域の食用トレニア栽培施設において、コナカイガラムシ類と推定される成幼虫が食用トレニアの茎葉に生息し、加害しているのが確認された(写真1)。

これらの虫の同定を農林水産省名古屋植物防疫所に依頼したところ、本県未発生のクロテンコナカイガラムシ (*Phenacoccus solenopsis* Tinsley) であることが判明した

発生ほ場及びほ場周辺の発生状況を11月中旬に調査したところ、発生ほ場と同一ほ場内で食用トレニア以外に食用金魚草で発生を確認した(写真2)。なお、休耕ほ場内のヒユ科雑草(写真3)や発生ほ場周辺のイヌホオズキやアレチノギク、ヒメムカシヨモギなどの雑草においても生息を確認した。

- 5 本種の形態、特徴等

## (1) 形態

雌成虫は翅を欠き、体型は楕円形である。体長は通常3～4mm程度であるが、大きい個体は5mmを超える。背面には白色のロウ質物を分泌し、全体としては白く見えるが、ロウ質物は一部で薄くなるため、2齢幼虫以降は2対の黒斑があるように見えるのが特徴である(写真4)。

## (2) 分布

日本：沖縄県(スイゼンジナ、ヒマワリ)、佐賀県(ナス)、福岡県(ミニトマト、ナス)

海外：中国、台湾、タイ、ベトナム、インドネシア、カンボジア、スリランカ、インド、パキスタン、エジプト、イラン、トルコ、オランダ、西アフリカ、北米～南米、オーストラリア、ニューカレドニア

## (3) 生態

雌成虫はワタ状のロウ質物の卵のう内に平均350個程度産卵する。繁殖様式は、交尾後産卵する有性生殖と、雌成虫が交尾せずに産卵する単為生殖の両方が知られている。1齢幼虫は数日間卵のう内で過ごした後、摂食のために歩いて分散する。雌では2齢幼虫、3齢幼虫を経て成虫になる。雄では2齢幼虫の終わりに繭を作り、前蛹、蛹を経て羽化し、1対の翅を持つ成虫となる。本種の単為生殖個体群における1世代の発育期間は平均70日程度である。

## (4) 寄主・被害

広食性で、海外ではワタ、オクラ、トマト、ナス等53科154種の植物に寄生することが確認されており、寄主植物は雑草から作物まで広範囲にわたる。インド及びパキスタンでは主要作物である綿花に被害を与えている。

## 6 防除対策

- (1) 現在のところ、食用トレニア、食用金魚草及びその他野菜類において本種に適用のある農薬はない。
- (2) 茎葉への成幼虫の生息と、これらが分泌する甘露及びそれによるすす病を目安に早期発見に努める。
- (3) 発生を確認した場合、発生株や生息部位を除去し、施設外に持ち出し土中に埋めるなど適切に処分する。
- (4) 管理作業による本種未発生の施設への発生拡大を防ぐため、発生している施設の作業は最後に行う。
- (5) 発生を確認した施設では、収穫終了後に耕起し、寄主植物を完全になくした状態にしてから次作を作付けする。
- (6) キク科等雑草は、本種の発生源となる恐れがあるので、ほ場周辺の除草対策を徹底する。

## 7 参考資料

植物防疫所病虫害情報No.92 (2010年11月発行) 輸入検疫で発見された主な重要害虫

## 8 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病虫害防除室

電話 0561-62-0085 内線471



写真1 食用トレニアに生息する成虫



写真2 食用金魚草に生息する成虫



写真3 休耕ほ場内のヒユ科雑草に生息する成虫  
(○印)



写真4 雌成虫 ロウ質物の薄い部分が2対の黒点のように見える (矢印)。